

クリスマスとはどんな日でしょうか。私たちはクリスマスを「プレゼントをもらう日」だと思っ  
ていますが、もうプレゼントは既にもらっています。2000年前、イエス様は私たちのために生  
まれました。クリスマスはそんなイエス様の誕生を祝う日です。（ヨハネ1：9～16）私たちの  
心の中には優しい気持ちといじわるな気持ちとどっちが大きいでしょうか。いつもこの2つの気持  
ちがたたかっています。調子がよければやさしい気持ちでいられますが、不安だったり悲しくなっ  
たりするといじわるな気持ちがでてきます。そしてこれをコントロールするのは難しいのです。コ  
ントロールできないのは怖いことです。私たちはしてもらいたい気持ちがいっぱいです。だから自  
分によくしてくれる人は好きですが、そうでない人は好きではありません。でも私たちのこんな汚  
い真っ暗な心のためにイエス様は来たのです。私たちのやさしい心を照らすためにイエス様は来た  
のです。クリスマスは、クリスマスプレゼントをあげるのです。でもこれは形のあるものではありません。  
私たちはその人が幸せになるように祈っています。クリスマスプレゼントはこんなもので  
す。「クリスマスの鐘」という話しを知っていますか。丘の上の教会の鐘には「クリスマスの時に  
だけなる鐘」という言い伝えがありました。その鐘は神様に贈り物をするとなると言われていまし  
た。でも何十年もなっていないでした。ペトロという男の子が教会にいつている途中、女の人が  
倒れています。ペトロはささげようとしていた銀貨を弟に託し、その女の人を助けます。そしてど  
んなに高価な物を捧げても鳴らなかった鐘が、この銀貨を捧げたときになりました。神様は銀貨を  
もらって喜んだわけではありません。子どもの優しい心が鐘を鳴らしたのです。その心を神様が喜ん  
だのです。そしてこの男の子がこんなことができたのは、イエス様が自分のために生まれたのを知  
っていたからです。こんなたとえ話もあります。銀貨をある女の人が10枚持っていて、1枚なく  
してしまいました。なくしたらどうしますか。もちろん探します。そして見つけたら大喜びです。  
お金が古かろうが新しかろうがその価値は同じです。でもなくなってしまうたら違います。そして  
神様はこのなくなったものを探しにきたのです。心に傷がある人、悲しい人など、そして私たちが  
なくしてしまった優しい心を探しに来たのです。だから①**イエス様はあなたと～の間に**。私たちの  
嫌いな人、悲しかったことなど神様はこういう間に来たのです。「自分さえよければいい」そんな  
汚い心を照らしにきたのです。イエス様は私のために十字架に架かったのです。悲しかったところ  
にイエス様を入れて下さい。イエス様は私たちの心をノックしています。②**痛みの分かる人に**。「あ  
んな人いなければいい・・・」「自分さえよければいい」そんな心の中にイエス様は来てくれました。  
人の嫌なところを見た時に、そんな気持ちがないですか。でも人に指さしたとき、イエス様が自分  
の汚い心のために十字架に架かったことを思い出して下さい。痛みの分かる人になりましょう。③  
**あなたが～の間に**。（マタイ25：33～46）今日から私たちがろうそくです。神様が火をと  
もしてくれます。動物がお金を持っていても使えません。人が持っていないと意味がありません。そ  
れと同じように、私たちのことも神様が持っていないと意味がありません。私たちの心には「イエ  
ス様」が光っています。でも汚い言葉を言うと、その光が消えてしまいます。誰かに何かプレゼン  
トをあげてください。物ではない優しいプレゼントをしてあげて下さい。クリスマスは一番暗闇の  
時です。こんな時にこそ光をともしていきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）